

特集

戦争という現実

♣ 扉 イラク戦争反対の発信
／NGOの役割

仁茂田芳枝 1

♥ まなぶということ

鈴木孝雄 2

♠ 詩 続・明けの明星

小島雅弘 4



軍事的価値に覆われる世界に「平和的生存権」を……齊藤小百合 6

「戦争」の現実生きる朝鮮半島……韓興鉄 9

「戦後」もつづく戦争の後景……富田環 12

争いの背後にある少数者・弱者への憎悪と排除……小畑美史 14

学びの日々を奪われた時代……北原博子 16

沖縄を二度と戦場にはしてはならない……木村辰彦 19

現地にまなぶことで自分を変えることができる……大園浩太 22

戦争という現実 労働組合という希望……関口達矢 24

日本のうしろ 世界のうしろ

日本の性差別はなぜ変わらないのか……浅倉むつ子

26

G7、ウクライナ支援のどさくさで国会がしたこと……横田昌三

国家と教育 5 明治後期から戦時期の教育目的……山岸利次 35

職場の法律相談 フリーランスで仕事をしたい……木下徹郎 53

憲法 20 衆議院の解散……北川鑑一 56

誌上学習会『イギリスにおける労働者階級の状態』9

大都市 4……60

◆ この本を読んで	◆ キャラバンサライ	◆ スポーツ時評	◆ 世界はいま
44	42	40	39
◆ 経済を知ろう！	◆ 数字を疑え	◆ 中国観看	◆ みんなで歌を
46	48	50	52
◆ 情報BOX	◆ 北から南から	◆ センターとみなさんをつなぐ	◆ カットII野崎安希子
64	65	68	

まなぶということ

人生を変える『まなぶ』

鈴木 孝雄

「戦争が廊下の奥に立ってゐた」（渡辺白泉1939年）。今日の「新しい戦前」を思わせる。日中戦争はすでに始まっていたが、国民にとって戦禍はまだ対岸の火事だった。しかし、鶴彬は1937年に「万歳と上げて行つた手を大陸へおいて来た」と戦争の悲惨さを鋭く詠い、29歳で獄中死した。1941年に真珠湾を「先制攻撃」して、米国との全面戦争に突入、広島、長崎の原爆投下をもってポツダム宣言を受諾し、戦争は敗北して終わった。

平和の裡に生きることは、当然のことだ。しかし、平和に、幸せに暮らすには、戦争への道を止めなければならない。敵基地攻撃能力を保有する、とは先制攻撃を認めることであり、軍事費を増やすことは年金や医療、福祉、教育費を削ることを意味する。これに反対することなくして「平和に生きる」ことはできない。たとえ軍事費を2倍にしたところで戦争

に勝つと決まっているわけでもないし、国民を守れるとは限らない。であるなら戦争に至る道をつつづつ止めて行かねばならない。それはなにをすることだろうか？ 答えは憲法にある。

正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求すること、軍備を持たせないこと（9条）、基本的人権を主張すること（11条・13条）、思想信条の自由を主張すること（19条）、集会、結社、表現の自由を主張すること（21条）、学問の自由を侵されないこと（23条）、個人の尊厳と両性の本質的平等を求めること（24条）、生存権を主張すること（25条）、教育を受ける権利を主張すること（26条）、勤労の権利を主張すること（27条）、団結権を主張すること（28条）等々。黙っているだけでは平和を享受することはできないのだ。

なかでも社会の基礎をなす労働者の団結する権利、団体交渉する権利、団体行動をする権利を行使することはにより重要だ。

『まなぶ』は、人生を変える道しるべとなるだろう。この社会がどのように成り立っているのか、教えてくれるからだ。（労働大学まなぶ友の会全国連絡会議会長）